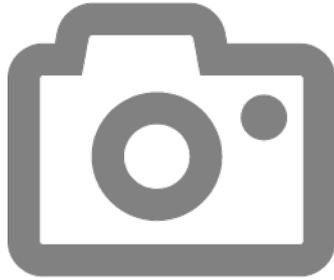




INTRO
JAPAN
PROJECT

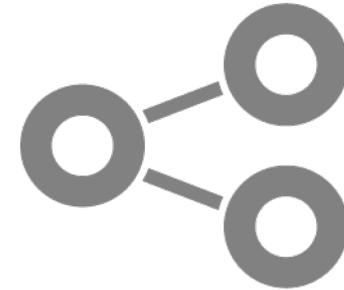
一般社団法人ゲートウェイ・アップ・ジャパン



全国各地を訪れる外国人旅行者または居住外国人が撮る写真とコメントによって、その地を他の外国人にも紹介し、案内してもらおうというプロジェクト。



外国人が普段利用しているSNSをベースに、外国人目線ということを大事にし、liveな情報を友人や家族に送るように情報発信してもらおうという企画。



日本の各地を日本人向けの観光案内を翻訳することで紹介するのではなく、もっとライブでカジュアルな情報を外国人の間でシェアすることで、集客や地域活力につなげようという取り組み。

現在の観光データの状況

清盛塚・琵琶塚 (キヨモリヅカ・ビワヅカ) 【観光】

エリア：兵庫 (新聞地) / 奥田 ジャンル：アート・カルチャー

シーン：お友達同士で

URL <http://www.city.kobe.lg.jp/culture/leisure/history/kyuusei/shousai/006.html>



清盛塚は、清盛橋のたもとにそびえる十三重の石塔(県指定文化財)。平清盛墓と伝えられてきたが、発掘調査の結果、墳墓ではなく供養塔である事がわかりました。隣接する琵琶塚は、琵琶の形をした古墳を琵琶の名手であった平経正の墓として伝えてきたもので、ともに市電の道路拡幅工事により現在地に移されています。



日本語の観光情報をそのまま英語に
翻訳し英語版サイトに掲載

The thirteen-storied pagoda towering at the foot of the Kiyomori-bashi Bridge is called the Kiyomori-zuka Tomb (prefecturally-designated cultural property). It had been said to be the tombstone of Taira-no-Kiyomori, but it was discovered that it was not a tomb but a memorial column. The Biwa-zuka Pagoda, a Biwa-shaped ancient tomb, next to it has been said to be the tombstone of Taira-no-Tsunemasa, who was a master of Biwa (Japanese lute). Both of them were moved to the current location due to the railroad expansion project for the municipal electric railway.

清盛塚は、清盛橋のたもとにそびえる十三重の石塔(県指定文化財)。平清盛墓と伝えられてきたが、発掘調査の結果、墳墓ではなく供養塔である事がわかりました。隣接する琵琶塚は、琵琶の形をした古墳を琵琶の名手であった平経正の墓として伝えてきたもので、ともに市電の道路拡幅工事により現在地に移されています。

神戸市観光情報サイトより一例

現在の観光データが抱える課題

その1： コンテンツ内容のクオリティ

私にとっては専門知識より日本語の文章を理解するまで時間がかかります（大体1つあたり30分前後、文章の意味を取るために費やしました）。特有の単語（宮大工、柱と組み杵、など）について理解するのに時間がかかった点と、これを実際に訳したあとで、日本についてあまり詳しくない人が中国語のを読んで文わかるかどうかになりました。



(中国語翻訳担当者：中国人)

宗教に関する記述のあるものについては、専門知識が必要だと痛感致しました。仏像名や、お寺の説明など、表現方法などに苦戦致しました。

⇒ 翻訳文は初めて来日される方も読まれると思い、『明治時代』という表記の後に、西暦で年数を記述するなどの工夫が必要であると感じました。



(英語翻訳担当者：日本人)

その2： 翻訳のクオリティ

文章の精度（文法、表現など）はどうでしたか。

精度は低いと思います。ほぼ修正しました。2つの原因と考えられます。

1)日本語に特有な主語、目的語、修飾語、補語の省略、文を繋げた修飾や補語によるものです。(省略)

2)日本語化された中国語です。日本語の熟語の影響で、一部の文法、表現が不自然ですが、意味は通じます。例えば、身長という単語をそのまま使っていましたが、正しくは身高であったり、動詞の位置が間違っていたりなどです。



(中国語翻訳担当者：中国人)

チェック前の英翻訳文章については、きちんと訳されているものと、そうでないものの差が激しい様に感じました。殆ど修正していないものが数個ありましたが、全体の9割程修正した様に感じております。



(英語翻訳担当者：日本人)

その3： タイムギャップ

日本語と大きく乖離があった文章は、感覚値で全体の何%ぐらいでしたか。

10%程度と思います。



(中国語翻訳担当者：中国人)

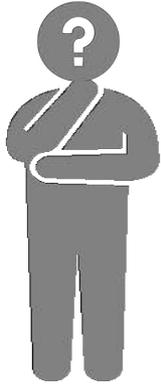
感覚値で全体の60%前後の様に感じました。日本語では詳細に説明しているものに対し、情報が不十分なものが殆どだと思います。



(英語翻訳担当者：日本人)



日本語のデータは施設オーナー等により、定期的に更新されるものの、その都度多言語の翻訳が更新されるわけではないので、乖離が生まれているようです。



基本的な知識(バックグラウンド)が違う訪日外国人に対して、日本人と同じ質やタイプの情報を提供することでよいのでしょうか。



日本人が興味を持つ観光情報と訪日外国人が興味を持つ観光情報とは違うので、どのような情報をどのように訪日外国人に伝えるのがよいのでしょうか。



正確な情報をリアルタイムに母国語で利用したいというニーズにどのようにすれば応えられるのでしょうか。

- 日本に来る外国人旅行者に外国人目線で日本を紹介してもらう「案内人」になってもらえるよう、参加が楽しい企画を用意しましょう！
 - 写真とメッセージが彼らから寄せられるようにして、日本の新しい魅力を発見し、発掘し、PRしましょう！
1. 日本を訪ねた外国人には、旅の途中でちょっと楽しかったことをTipsとして寄せてもらいます。
 2. 日本に暮らす外国人には、普段着の日本を紹介してもらいます。



INTRO JAPAN = 日本人が訪日外国人に伝えたい情報（翻訳）
+ 訪日外国人が伝えたい情報（母国語）
+ 居留外国人が伝えたい情報（母国語）

INTRO JAPANでは、次の人たちが写真とメッセージで各地を「案内」します。



「おもてなしアプリ」ユーザ

- ・ 旅での発見や感動を、今同じように旅しているアプリユーザの人たちに発信してもらって、アプリユーザ間でシェアしてもらいます。
- ・ 後から日本に来る同じ国の人たちに役立つ情報を残していらいます。



日本に暮らす居住外国人

- ・ 同国人の感性にあった情報を紹介してもらいます。
- ・ 暮らしていればこそ分かる役立つ情報を教えてもらいます。

その1 だれに「案内」してもらおうか

日本に来ている留学生に呼びかけて、プログラムへの参加を募ります。

- ・ 留学生には、普段の暮らしの中で体験する身近な「もの」や「こと」を発信してもらいます。
- ・ 小旅行等を企画してレポーターとして発見や感動を伝えてもらえるよう、伝統や地元産業などは時に「取材」してもらいます。
- ・ 参加に対しては、何かしらのインセンティブを用意します。
- ・ レポーターとしての参加には、情報にクオリティが求められるので、ある程度のマネジメントが必要になります。

その2 何を伝えてもらうか

留学生に、普段の暮らしの中で体験する身近な「もの」や「こと」を発信してもらうということは、

- ・ 留学生が地域コミュニティと共生していくということですし、
- ・ 留学生同士が共助の仕組みを形作ることもあります。



地域の文化や伝統を世界に発信してくれれば、特に母国の日本留学希望者に地域の暮らしや文化や伝統を、現役の留学生が写真とメッセージで伝えてくれます。日本の、そして大学の、大きなPRになります。

旅先の発見や感動を「取材」してもらうことで、日本人が案内するのとは違った魅力やおもしろさを発信できるようになり、外国人の、特に同国人に対するメッセージを使った街マップや観光ガイドも作れるようになります。

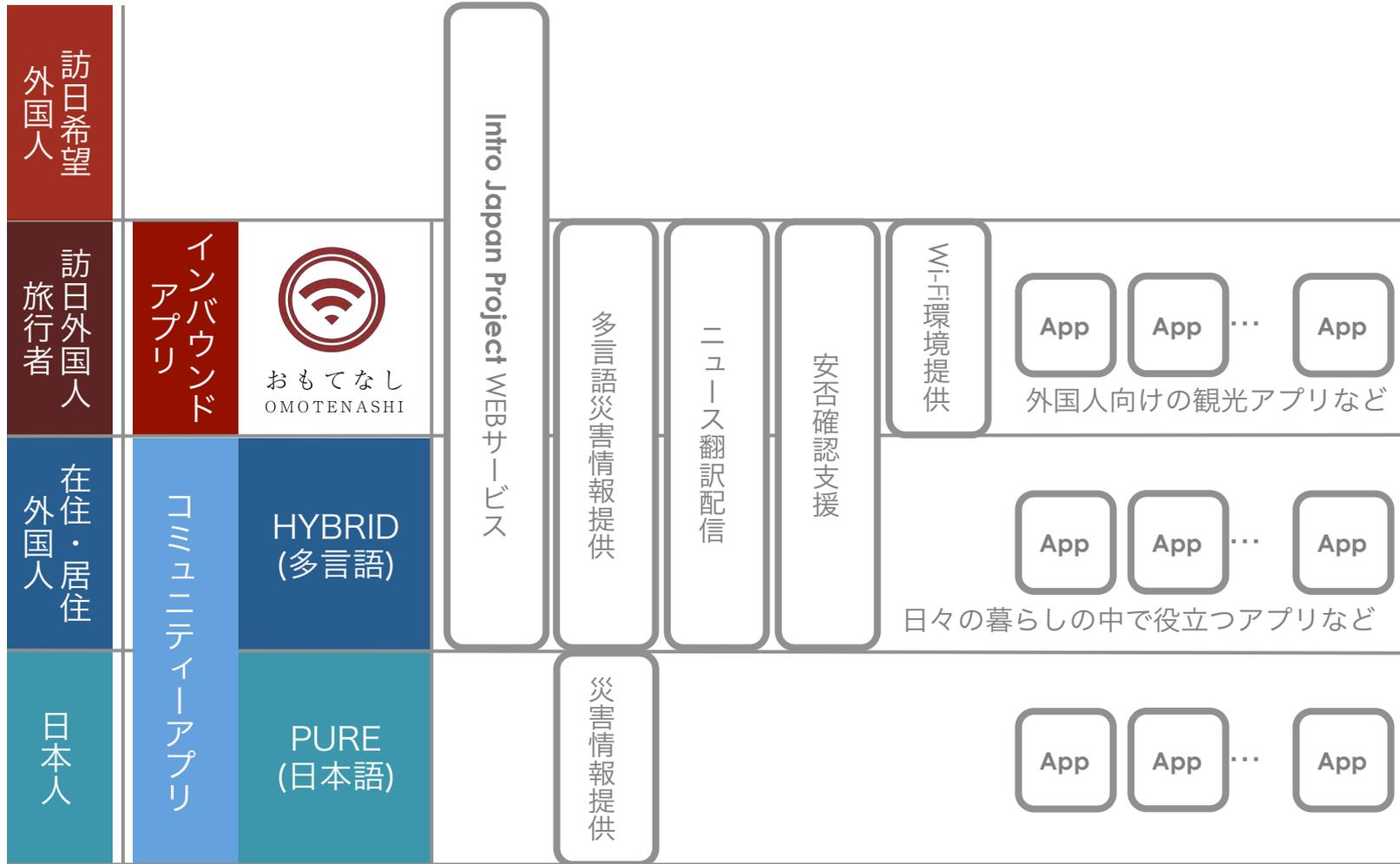
	INTRO KYOTO	INTRO BIZEN	INTRO SHIGA	INTRO KAGA	INTRO NARITA
WONDER 日本食					
WONDER KIMONO					
WONDER 成田空港					

Intro プロジェクト (非スポンサーモデル)

外国人・留学生が作成し利用言語ごとに構成。
興味を持った、観光地やお店等の情報を収集し写真とテキストで情報を作成。

Wonder プロジェクト (スポンサーモデル)

外国人・留学生が作成し利用言語ごとに構成。
日本の伝統的なあるいは新しい文化や工芸品、製品についての情報を収集し
写真とテキストで情報を作成。



- ・ 経済産業省で平成26年度に行われた調査研究(地方自治体における共通語彙基盤を活用した多言語対応行政サービスの導入に関する調査研究)の一環で実施した実験データ
- ・ ミドルベリー大学の学生12名 (6言語各2名)
- ・ URL : <https://www.facebook.com/groups/1544339809149318/>



Una esperienza veramente interessante era quella della sala dei videogiochi. Sembra che questi servizi di intrattenimento siano veramente essenziali nella cultura giapponese. Una sala del genere offre una varietà enorme di videogiochi che non sono soltanto per i bambini ma anche per gli adulti. Entrando in una delle sale, si può vedere uomini di affari ma anche studenti della scuola media mentre giocano a uno di questi giochi. Una sala dei videogiochi ha un'atmosfera veramente speciale: il rumore e le luci creano quasi un altro universo dentro l'edificio. Uno può entrare sia durante la notte sia durante la giornata: queste sale sono sempre piene di persone che vogliono rilassarsi. Si può vedere dei giocatori veramente bravi, quasi virtuosi. Ci sono videogiochi di ogni tipo: azione, musica, anime, eccetera. Uno può anche cercare di pescare un giocattolo oppure prendersi una foto in uno dei photobooth.

REFERENCE (1)



While exploring Kagurazaka, my friend and I decided to sample some traditional Japanese treats at a wagashi shop. We tried delicious mochi and daifuku, but the moment I saw the mitarashi dango, I knew I had found something special. It looked heavenly - small rice balls, which I guessed were filled with creamy custard, were stuck appetizingly on a stick, and covered in what appeared to be a perfect caramel topping. There were only two sticks of dango left, and the woman in front of us in line bought one. I was so worried I wouldn't get a chance to try the beautiful dessert!

I was so excited when I finally paid for my mitarashi dango. This was it! The moment of truth! I took a great big bite and grimaced. My mouth was filled with a doughy rice ball covered not in caramel, but in a thick, sticky, soy sauce based paste. My dreams were shattered. I struggled to finish the mouthful, feeling a bit betrayed.

The dango was definitely not my favorite food in Japan, but it was memorable. It was a fun reminder that Japan is a totally new experience for me - and that it has many surprises and treasures waiting to be discovered. It taught me to keep an open mind, avoid assumptions, and always be prepared to try something new.

REFERENCE (2)



I particularly loved "Skipa", a tiny cafeteria in a small lane next to the main Kagurazaka street. The green tea with milk was delicious, the atmosphere inside is cosy and warm, it is full of small colorful objects that entertain your sight. Take a break from the city (in the city)!

Quando ho incontrato "Skipa" e' stato amore a prima vista. E' successo cosi', per caso, quando Johannes Härtel ha deciso di svoltare a sinistra per esplorare uno di quei piccoli vicoli annessi alla strada principale. Si tratta di una caffetteria davvero originale, molto silenziosa, con pochi posti a sedere (tavoli e sedie rigorosamente di legno), piena di oggetti carini che catturano l'attenzione. Vale davvero la pena entrare ed ordinare un te' verde con latte.



Venez découvrir la France à Tokyo! Situé dans l'arrondissement de Shinjuku, le quartier historique de Kagurazaka et ses alentours vous offrent plusieurs cafés, bars, et restaurants francophones pour guérir votre nostalgie. Certes, la majorité de ces locaux ne sont pas authentiques, mais sont là pour attirer des habitants de Tokyo qui désirent avoir une expérience française. Plusieurs propriétaires, comme vous pouvez voir sur cette photo, n'ont pas une grande maîtrise du français. Il y a quand-même des serveurs ou propriétaires réellement français. N'oubliez pas de visiter Kagurazaka!

REFERENCE (3)



من المقترض أن كل زوار منطقة (كاغورازكا) في (شنجوكو) يستمتعون باكل (وأغاشي) أي الحلويات اليابانية اللذيذة. في شوارع كاغورازكا يمكن الاستكشاف الكثير من الدكاكين التي تعارض حلويات متنوعة. للأسف معظم موظفي دكاكين الحلويات لا يمكنهم أن يتكلموا اللغة الإنجليزية أو اللغة العربية ولكن أشجع كل الذين يزورون هذه المنطقة على محاولة كل الأشياء التي يراونها هناك.



It was the first time in my life when I was able to touch a ceiling. I'm only 161 cm tall - it is considered short in Russia and post-Soviet countries- but this particular Shinjuku passage seemed rather low even for me.